



議会だより



議論に耳を傾ける議長

六
月
定
例
会

一般質問（6人が質問）・・・・・・・・・・・・・・・・・・	2P～7P
議案の審議結果（6月定例会）・・・・・・・・・・・・・・・・	8P
議案の審議 そこが聞きたいQ&A（6月定例会）・・・・・・	9P～10P
高吾北広域町村事務組合報告（第2回定例会）・・・・・・	10P～11P
総務教育民生常任委員会活動報告（本町医療の現状と課題）・・・・	12P～13P

町 政 を 問 う 一般質問 6人登壇

- 片岡智準 議員 P 2
 ☆社協について
 ☆木材JAS規格
- 大野 弘 議員 P 3
 ☆農林業振興について
- 竹本文直 議員 P 4
 ☆県道安居公園線
 ☆池川土居地区水害対策
- ☆自殺防止対策
- 左京憲昌 議員 P 5
 ☆本町の制度統一
 ☆林業振興
 ☆文化財保護
- 藤崎源彦 議員 P 6
 ☆町内医療機関への支援
- ☆在宅介護者への対応
- 西森常晴 議員 P 7
 ☆大崎診療所建て替え
 ☆白バイ事故について

一般質問

社会福祉協議会改善を!!



提案する(総務課長)

問

片岡智準議員

社会福祉協議会(以下「社協」という)について、改善を求める声がある。

総務課長は理事に就任し、定例会で「積極的な発言」や「注意深く気を付ける」と発言している。

理事会で審議された議事内容を聞く。

答

片岡総務課長

平成29年5回の理事会があり、業務の関係で2回出席した。

問

片岡議員

議案は予算や事業報告、会長の任命、施設長の任命など。また健康福祉大会や放課後子ども教室の今後について提案され協議した。

私は過去社協に改善策を提案したがいまだに問題点が耳に入る。今一度理事会の場で提言し、議論されたい。各施設長も理事会に出席し、理事と共通の認識を持つべきでは。

答

片岡総務課長

私が出席した理事会では施設長は出席していない



社会福祉協議会

問

片岡議員

が、必要性は感じる。提案は事務長に伝える。

施設長が、一人でも出席し発表することは意欲向上につながるのでは。

答

片岡総務課長

提案しておく。

木材乾燥JAS規格
厳しすぎる?

厳しいが一定の基準は必要(町長)

問

片岡議員

森林資源活用の障害は、

JAS規格。原木市場の取引価格は1㎡あたり約1万2千円、製品販売価格は7万5千円。乾燥費が2万7千円必要。JAS規格の含水率20%以下が要件。森林資源を多く持つ本町から、規格改定の機運を盛り上げるべきでは。

答

大石町長

建築資材の含水率

問

片岡議員

は部材ごとに定められた温度・湿度の環境変化に対して安定した含水率は20%未満、人工乾燥では10~25%、天然乾燥では30%以下、天然乾燥材では品質管理が難しく、一般的には人工乾燥材を利用。未乾燥材を使用すれば建築後の収縮・寸法変化が生じ、一定の基準は必要と考える。

答

大石町長

材木が少しでも高く売れ、森林所有者に多く還元できる方法を模索すべきでは。

木質バイオマスを使った活動も進み、山元に少しでも多く還元できる形にしたい。

農林業の振興に
どう取り組むか間伐の推進・農産物の
6次化(町長)

問 大野 弘議員

平成29年度、間伐実績及び事業の取り組み状況及び間伐推進に向けての方針。過疎高齢化による耕作放棄地や鳥獣被害などにより、荒廃地が増加している。農業振興事業の取り組みを聞く。

答 大石町長

平成29年度間伐実績は、緊急間伐総合支援事業で面積が58・43ha、国の補助事業を活用した間伐面積は



間伐された植林

154・86ha、合計で213・29ha。小規模林家は、高齢化により減少、後継者育成が難しい。県単独事業を活用し、小規模林家への支援を行う。仁淀川町森林管理推進協議会が、国の補助事業を活用し集約化を図り、森林経営計画による団地化を促進する。

今国会で成立が見込まれる森林環境税や平成31年度から施行される森林経営管理法を活用し、町内全域での間伐を推進。農業振興は、中山間地域等直接支払交付金事業で、19協定、面積で約129ha実施、基盤整備事業は、耕作道宮ヶ坪線の改良工事、大内、東村地区の水路改修工事。有害鳥獣捕獲報奨金、鳥獣被害対策では新規狩猟者確保や、防護柵設置に補助金を支出、各生産組織へ助成している。

基幹作物のお茶は、生産者の高齢化、生産意欲の低下が心配される。平成30年度、県の農業改良普及所と連携し、茶生産農家にアンケート調査を実施し農業振興対策に取り組む。仕上げ茶に加工、商品化、製品化を図り販売に力を入れていく。フードプランは、平成29年度

カット野菜の新工場が完成し、町内産作物を使用するよう取り組みを進め、高齢者が野菜作りに励める体制づくりに取り組み、これらを組み合わせることで、今後の農業振興を図っていく。

支援体制は十分か
体制は変わっていない

問 大野議員

平成29年度まで、林業専門の県職員が課長補佐として活躍していた。その後の体制は。

町の資源を生かすため、間伐推進に積極的に取り組むべきでは。

中山間地域等直接支払制度は、制約が多く、取り組みには大変厳しい条件がある。町独自でこのような制度ができないものか。

例えば面積3a以上、人数は2人



荒廃が進む農地

以上と制限を低くした、維持管理的な、小規模な補助金制度があれば、放棄地解消につながるのではないかと。

答 大石町長

産業建設課は農林業と、建設課の課長補佐の2人体制。県職員は帰ったが体制は変わっていない。今後産業振興の部門で取り組んでいく。直接支払制度は、検討したい。



県道安居公園線 う回路は？

新規開設は難しい
県道の早期改修を(町長)

問 竹本文直議員

成川から川内谷の区間にはう回路がない、新設の要望があったが、実現できていない。県に対し改修改良も含めた強い要望をしていく考えは。

答 大石町長

県道は、延長約8・8kmの住民の生活を支える幹線道路、周辺地域は地形が非常に急峻で新設するには膨大な費用がかかる。早期整備を県議会及び県

に要望をしている。余能地区と、池川の大渡地区を結ぶ林道も検討したが難しい。

問 竹本議員

早期改修を求める声がある。

観光、住民の生活を守る両面から、非常に重要なルート。「う回路がほしい」地元の強い要望、ぜひ前向きな検討を。

答 大石町長

安居公園線は生活、産業、観光の面で、非常に重要な道路、知事も必要性は十分承知。



県道安居公園線（入江谷付近）

地元の促進期成同盟的な組織ができれば、より強く要望できると考える。

**池川土居地区の水害対策
心配する声が多い
個人の土地利用制限は
できない(町長)**

問 竹本議員

最近、下土居地区に遊水地であった場所を埋め立てて製材工場ができた。住民から水害を心配する声が多く聞こえてきている。

答 大石町長

敷地は民有地、土地利用に関しての法による規制や制限を受けた土地ではなく、町として個人の土地利用制限はできない。

昭和50年の災害以降、河川の整備も進み、甚大な被害も出ていないが、地元住民の心配は非常に大きい。今後、監視、情報伝達にしっかりと取り組み、被害防止に取り組む。

問 竹本議員

地元住民が非常に心配している。

答 大石町長

災害対応面で過去の教訓を生かしていく。

**自殺防止対策
計画は進んでいるか
計画策定中
(片岡保健福祉課長)**

問 竹本議員

自殺対策基本法は都道府県と市町村に地域自殺対策計画策定を義務付けている。

本町の計画と取り組みを聞く。

答 大石町長

平成28年に改正された自殺対策基本法では、県及び市町村における自殺対策計画の策定を義務付け。

平成29年7月に自殺総合対策大綱が見直しされ、自殺総合対策の基本理念「誰も自殺に追い込まれることのない社会の実現を目指す」を掲げ、具体的方法や

施策、目標について検討をしていく。

問 竹本議員

県の資料によると、残念ながら本町の自殺率は他町村に比べて非常に高い。実態を調査した上で計画を立てる必要があるのでは。

答 片岡保健福祉課長

本町は、まだ具体的に取り組んでいない。本町の自殺の特徴、全国や過去との比較、優先されるべき対照群の把握。

これまでの取り組みと評価、自殺対策の推進体制を盛り込み計画していく。

問 竹本議員

相談しやすい社会、職場環境をどうつくるのか。しっかりした計画を。

答 片岡保健福祉課長

国からの指示もあり、義務で早期に計画を作成する必要がある。

地域の特徴も含め、アンケート調査など実施し、慎重に協議の上、策定する。

町の制度統一

統一できるよう
取り組む(町長)

問

左京憲昌議員

- ① 年1回の地区長会は、旧町村単位で開催している。一堂に会し、町内融合を目指すべきでは。
- ② 地域長制度の実施地域は少なく、実施効果が見えない。
- ③ 地区集会所用地の費用負担は均衡がとれていない。制度の統一が必要。
- ④ 町関連施設(学校用地ほか)借地料算定基準の統一は。
- 契約時と現在の土地の価

答

大石町長

値は比較できない。適正な借地料に改正すべき。

- ① 151地区の区長・地域長・執行部を含め200人ほどになる。送迎や会議の規模などが課題で、旧町村地区ごとに開催。統一を目指し、今後とも、前向きに取り組む。
- ② 地域長制度は、仁淀地区、吾川地区の1カ所で実施。それぞれの地区を統括し、地域の責任者として自治及び町行政とのパイプ役として大変重要。
- 地域長制度は、合併前の旧小学校校区を基本として、地域の懇談会で説明し一定の理解は得た。
- ③ 地区集会所は、修繕などの費用8割以内を補助し、各地区で管理をしている。集会所の用地や管理など、取り扱いが統一できていない。
- 今後、調査、検討を行い、統一できるよう取り組む。
- ④ 借地料は、統一された単価でない。適正な借地料

に統一すべく、所有者の理解を得ながら、進めていきたい。



川口集会所

林業振興・不在地主対策は

前向きに取り組む

(町長)

問

左京議員

本町は森林所有者から、山林などの寄付申し出を断った事例がある。それでは不在地主や不明地主を増やす。

林業振興のため、受け入れるべきではないか。

答

大石町長

一定の面積があれば、前向きに取り組む。管理も大変になり、森林経営管理法の施行時に併せて考える。



荒れた山林

文化財保護・泉の番所の改修は

文化財保護審議会の意見を聞く(教育長)

問

左京議員

残したい文化財「泉の番所」の老朽化が激しい。文化財はいったん途切れれば、再現は困難、歴史的な建造物を後世に残しておくことこそ重要、補修を求める。

答

竹本教育長

町には、国指定の文化財8、県指定の文化財5、町指定の文化財20ある。

有形・無形それぞれ歴史的価値、学術上貴重なもの、本町の財産だと考える。「泉の番所」は、平成15年度に茅葺き屋根の改修を行い保存に努めたが、風雨にさらされ老朽化、専門業者と対応を検討した。

現在はその材料となる茅の在庫がなく、平成30年度の改修は困難な状況にある。茅葺きの改修は高額。

長期間の維持管理も考え、茅以外の建築部材での改修も検討が必要。町の文化財保護審議会の意見を聞きながら進める。



守るべき文化財の一つ都の太鼓踊り

医療機関を地域で
支える環境

連携を密に(町長)

問

藤崎源彦議員

町内の民間医療機関は、それぞれの地域に密着し、総合診療やかかりつけ医としての役割を担っている。町は医療機関に対し、関与、支援を行っているか。

答

大石町長

医院1施設とは、2カ月に1回連絡会を実施。2施設は、医療救護所として、災害時に必要と思われる薬剤、医療用品、医療用具など配布。

公的支援は3施設とも行っていない。

問

藤崎議員

大崎診療所も含め、患者の通院を支援する対策が必要では。

答

大石町長

身近な交通手段として、通院困難な方のためにコミュニティバスを運行。地域タクシー券、福祉タクシー・ガソリン券の助成も行っている。

問

藤崎議員

医療機関を地域で支える環境を整えるべきでは。

答

大石町長

医師確保が厳しい状況、住民挙げて医師の苦勞を認識し支える環境を作り、町内の医療状況を紹介していることは重要と考える。



町内の医療機関

在宅介護者への支援
訪問医療の現状は
あらゆる制度を駆使
(町長)

問

藤崎議員

人生の終末期を自宅で過ごし、自然な終焉を迎えたいと願うのが大半。

介護認定で、家族の介護環境は判定の対象になるか。

答

大石町長

介護認定は、全国一律の基準で、家族に関係なく、その人にとって最適な介護度が出る仕組み。家族が介護に関わる場合、家族力を最大限発揮できる居宅サービス計画書(ケアプラン)が立てられる。

在宅介護推進のため、介護保険の任意事業として、要介護4以上の在宅介護者を対象に、年間12万円を限度に、家族介護用品支給事業を行っている。

問

藤崎議員

社会福祉協議会の介護

サービスについて、在宅者からの評価をどのように捉えているか。

答

大石町長

地域包括支援センター職員が、社会福祉協議会の介護サービスを受けている利用者や介護支援者との会議で、在宅介護者の評価を聞く機会がある。

サービスの利用者や家族からの評価は、良好だが「もっとヘルパーの回数を増やしてほしい」との要望もある。

問

藤崎議員

訪問医療の現状と方針は。

答

大石町長

在宅患者の状態に基づき、診療計画を立て定期的に訪問し、医療的管理を行っている。

高齢化率上昇とともに、終末期医療や在宅介護の要望に応えるため、訪問医療・訪問看護・訪問リハビリなどの充実を図る。町内に介護保険の訪問看護サービス事業所がない。

町外の訪問看護サービス事業所を利用する際、利用者に求められる交通費について助成を検討している。

問

藤崎議員

訪問リハビリは需要が多い。理学療法士を増員しては。

答

大石町長

訪問リハビリ利用者は20人前後、うち5人が週1回国保大崎診療所、他は、越知町内病院を利用。

国保大崎診療所は、3人の理学療法士を雇用。今後、利用者が予想され、訪問リハビリの体制整備を進める中で、新規雇用も検討する。

問

藤崎議員

重度要介護認定者で在宅介護が困難になった場合の支援は。

答

大石町長

地域包括支援センターが、介護者、介護支援専門員、医療機関と相談し、医療依存度や認知度に応じた施設を紹介している。

大崎診療所を
2診制に再検討する
(保健福祉課長)

問

西森常晴議員

大崎診療所の建て替えは、担当者から綿密な資料の提供を得、理解を深めている。

町民からはどのような要望があるか。

答

片岡保健福祉課長

平成29年度に計4回検討委員会を開催してきた。

プライマリ・ケアを充実させるためには、医師2人の確保が必要。

「入院施設の再設置を検討

討してほしい」「建て替えの場所については現在の場所周辺」が要望としてある。

問

西森(常)議員

「町民が住んでよかった」が定着するには、相当の努力が必要。

包括ケアシステムは、医療や介護を、住んでいる町で死ぬまで必要なサービスを受けられる施策、実現に向けての意気込みを聞く。

答

片岡保健福祉課長

住民、議員、職員を交え、再検討する。

プライマリ・ケア
身近にあって何でも相談に乗ってくれる総合的な医療。



大崎診療所

指定管理・丸投げ
は無責任

現場を確認する

(教育長)

問

西森(常)議員

平成18年3月の春野町での白バイ事故。

町はこれまで、どう関わってきたのか。

答

竹本教育長

仁淀中学校の生徒を乗せたスクールバスと県警交通機動隊の白バイが衝突し警察官が死亡した事故、最高裁まで争ったが実刑判決を受け、再審請求をしていたもの。

町は、個人に課せられる刑事責任や行政処分には関与することはできないが、民事における損害賠償や遺族への対応、生徒たちへの心のケアなどに関わってきた。

問

西森(常)議員

当時の本会議で担当者に質問した。

答弁で「事故の内容については、委託している業者の報告書を待っている」に驚いた。

事故の発生後、町は可能な限り人数を動員し、現場に駆け付けねばならなかったのか。

答

竹本教育長

十分に現場を確認し、事業把握に努める。



石垣ハウス満1年

昨年6月に町内の泉、竹ノ谷、舟形、加枝などの4カ所(5軒)で始めた石垣ハウスが満1年を迎えた。メインのトマトは糖度5、6度で順調に収穫し、市販のトマトより味も好評。今は夏トマトに切り替えられている。

さて、気になっていたマンゴーは？

今年は町内でも2月に積雪があり、氷点下4度を記録する寒さ。

しかし、ハウス内は暖房なしで、最低8度を確保。マンゴーも無事冬場を乗り越え、3月には一面の花が咲き誇り、赤ちゃんのようなかわいらしい。小豆より小さめの実を付け、やがて大豆の大きさに、その実の数、約百個(思わず笑い...)。

ところが、日を追うごとに実が枯れ落下。原因は単純に水不足。今は毎朝水やりと温度管理の日々、何とか命をつないだ1個のマンゴー(写真)の成長を見守っている。

トマトに合わせた散水、マンゴーにはあまりにも過酷な条件を知る反省の1年でした。

経験に勝る宝なし、来年に乞うご期待！

片岡智準議員投稿



何とか命をつないだ1個

議案の審議結果

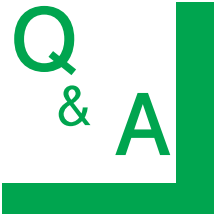
平成30年第3回仁淀川町議会6月定例会議決事項

議案番号	件 名	議決結果	賛否
報告第4号	専決処分の報告について（自動車事故の損害賠償に関する和解について）	報告	報告のみ
報告第5号	専決処分の報告について（仁淀川町税条例等の一部を改正する条例） ※地方税法等の改正に伴い、たばこ税の税率引き上げ等に伴う改正。	原案承認	反対:野村議員
報告第6号	専決処分の報告について（仁淀川町国民健康保険税条例の一部を改正する条例） ※地方税法等の改正に伴い、本条例の一部を改正するもの。	原案承認	反対:西森(久)議員
報告第7号	専決処分の報告について（仁淀川町教育研究所設置条例の一部を改正する条例） ※町教育委員会事務所移転に伴い、町教育研究所の住所変更をするため改正するもの。	原案承認	全員賛成
報告第8号	専決処分の報告について（平成29年度一般会計補正予算（第8号）） ※補正額は8,961万3,000円の減額、補正後の予算額は、歳入・歳出それぞれ89億5,179万5,000円。	原案承認	
報告第9号	平成29年度仁淀川町繰越明許費繰越計算書の報告について ※18事業5億2,850万5,000円を繰り越すもの。	原案報告	報告のみ
議案第40号	仁淀川町庁舎等整備基金条例を改正する条例について ※庁舎整備事業の完了に伴い、町施設整備に要する基金とするため改正するもの。	原案可決	全員賛成
議案第41号	平成30年度仁淀川町一般会計補正予算（第1号）について ※歳入歳出の補正額は、9,408万円の補正、補正後の合計は、65億2,672万7,000円。	原案可決	反対:野村議員
議案第42号	平成30年度仁淀川町農業集落排水事業特別会計補正予算（第1号）について ※歳入歳出の補正額は、3,200万6,000円の補正、補正後の合計は、6,652万5,000円。	原案可決	全員賛成
諮問第1号	人権擁護委員の候補者の推薦について 住所 寺村 氏名 井上 三信（60）	原案適任	
諮問第2号	人権擁護委員の候補者の推薦について 住所 長者丙 氏名 西森 君香（59）	原案適任	
諮問第3号	人権擁護委員の候補者の推薦について 住所 竹ノ谷 氏名 園山真知子（64）	原案適任	全員賛成
発議第2号	全国一律の最低賃金制度の確立と最低賃金の大幅引き上げによる地域活性化そしてそれを可能にする中小企業支援策拡充を求める意見書について	原案同意	
追加議案第1号	議会基本条例検討特別委員会委員の辞任について ※岡田良成議員より提出された「議会基本条例検討特別委員会」委員辞任届に伴うもの。	原案否決	全員反対

議案の審議

そこが聞きたい

—第3回（6月）定例会—



○専決処分の報告

高知市内の県道交差点で、信号待ちをしていたとき、操作を誤り、前方停車中の自動車と運転者に損害を与えた事故。

和解の内容

(1) 町は、相手方に116万4千824円を支払う。
(2) 町及び相手方は、本件事故に関し、前項の金額以外に一切の債権債務関係がないことを確認する。

問 片岡議員

「停車中に操作を誤って」との説明だが内容は。



答 片岡総務課長

事故は、病院へ入院中の支援の必要な住民を職員が公用車で業務として送迎中、急に住民が車外へ飛び出したため発生したもの。

問 左京議員

町有車の保険はどうなっているのか。町が追加で支払ったのか。

答 片岡総務課長

この自動車事故はすべて保険で処理し、報告している。

問 竹本議員

社会福祉協議会が対応した患者の事故ではなく、町の事故なのか。

答 片岡総務課長

町職員が対応している住民を送迎中の事故。

○平成30年度補正予算

■平成30年度仁淀川町一般会計補正予算（第1号）について

問 大野議員

平成30年から、土砂災害防止月間の防災パトロールを休止した理由は。消防団の統合計画をどのように計画しているのか。



答 片岡副町長

防災パトロールは消防団中心に行ってきた。近年、他の消防行事増加もあり、普段から消防団活動、例えば自主防災組織と連携をとる。各地区で取り組みをお願いした。

答 片岡総務課長

消防団は現在、3方面隊。分団が吾川方面隊4、池川方面隊4、仁淀方面隊5。旧町村の消防団組織を統括した形。今後、伝達系統、組織体制を整理できないか協議中。現在の人員は、消防団の定員数が310人、実員259人。

問 大野議員

近い将来発生する地震の危険性、自然災害を考えると防災パトロールの継続は必要。消防団の統合はやむを得ないが団員を減らさない

で、地域の安心・安全の確保を。

答 片岡副町長

地域の危険箇所把握の必要性は認識している。今後実効性のある取り組みを行っていく。

答 片岡総務課長

消防団員の確保に困るも苦慮している。実質に必要な団員数を今後調整していく。各分団にある格納庫は、現状を維持する。



災害時には頼りになる消防団

問 野村議員
農林水産業費の中山間地域所得向上支援事業費補助金、この場所と敷地面積を。



答 古味池川地域振興課長
池川茶業組合農産物等処理加工施設の場所は、坂本地区。面積は112㎡。予冷庫と小袋の包装機を整備する計画。

問 竹本議員
災害復旧費の林業施設災害復旧費、この測量設計委託料の場所を。

答 古味池川地域振興課長
相ノ谷地区から、林道下土居松谷線を約9・7kmの場所。

■人権擁護委員候補者の推薦について

氏名 井上 三信(寺村)



氏名 西森 君香(長者内)



氏名 園山真知子(竹ノ谷)



高吾北広域町村事務組合報告

平成30年5月30日 (第2回定例会)

組合長報告

清掃センター基幹的施設整備工事、平成29年度事業は予定どおり終了。

平成30年度は2号焼却炉の解体を開始、現在は1号焼却炉単独で延長焼却により対応している。

今後の予定は、煙道、各種コンベヤなど共通部分の更新時に焼却炉を5日間停止する。

収集が滞り、構成町住民の皆さんにご迷惑を掛けることのないよう、停止時期を勘案し最適な調整を行う。

平成30年度中は、現場での工事が多く、事故がないよう万全を期す。

一般質問 2議員が登壇

問 竹本文直議員

(仁淀川町)

組合指定の可燃ごみ袋のサイズは2種類。単身世帯は、ごみの量は少なく、冬場は良いが夏場は衛生上問題

があり、その都度出したいという声が届いている。少し小さいサイズの検討を。

答 清掃センター所長

増やすことは考えていない。要望はなく、種類を増やすことでコストがかかる。購入数、発注数量が少なくと価格上昇につながる。

問 竹本議員

購入単価が高くても夏場は仕方ないとの声がある。要望がないというのが相談窓口が分からない。

答 清掃センター所長

3町で決定する項目、今後の課題になる。



設備を一新する清掃センター

問 坂本玲子議員

(佐川町)

消防部門以外の事務局部門での現在の職員定数と充足状況、各施設での状況、正規職員の割合は。また、現場を持っている各施設ではどう思うか。

臨時職員の勤続年数、経験値など、臨時職員の待遇面も合わせて聞く。

答 事務局長

消防以外の事務局の職員の定数が196人、5月現在の正規職員数は175人、定数に対する充足状況は約89%

看護職員	機能訓練指導員	栄養士	介護福祉士
9,500円	8,200円	7,500円	7,300円
作業職員	介護職員	調理職員	その他
7,100円	7,100円	6,900円	6,000円

程度。

ほとんどが臨時職員なのは特別養護老人ホームで53人雇用、現在の割合は、正規職員77%、臨時職員23%の比率。

正規職員の適切な雇用をとの問いだが、現在定数上では20人程度少ない。175人の職員数は、近年ほぼ変動がなく、定数的には増員も可能、増員ができれば受益者サービスの向上を図れるが、財政上の問題で厳しい。臨時職員の待遇は、別表の通り。

諸手当は、特別養護老人ホーム勤務の介護職員は介護職特別賃金、期末手当当年2回、特別養護老人ホーム夜間勤務者に夜間勤務割増賃金、通勤費は距離に応じて支給、火葬業務を行った場合に1件当たり火葬業務特別賃金、以上が賃金面。有給休暇などの就業規則に代わる規程も整備をしている。近年、人材確保の観点から待遇改善は必要と考え、改善を図る。

答 五葉荘所長

質の高い介護を目指し、重点的な取り組みとして、職員教育、外部研修、施設内研修の機会を設けスキルアップすることで利用者への適切な対応を目指す。

職員お互いが、立場を理解して、チームワークよく起動する職場となる環境づくりに取り組む。

職員全員が地域住民の福祉サービスを担っているという意識付け

が、地域を知りご家族を理解するということにつながり、入所者への適切な対応ができると考えている。

問 坂本議員

入所者数が一定でない場合は、臨時職員での対応もある程度仕方ないと思う。しかし、雇用条件の改善が必要。また、施設によって正規、非正規職員



五葉荘（特別養護老人ホームと養護老人ホームを併設）

のバランスが違う。バランスを取るべきでは。

答 事務局長

正規職員で全員配置するのが理想、比率を上げると当組合で運営できなくなる可能性が高まるが、賃金体系は改善していく。

養護老人ホームは正規職員が少ない、別の会計になっており、会計内での収支をしている。

議会だより51号
お詫びと訂正

5頁、高吾北広域町村事務組合報告 平成30年2月27日(第1回定例会)の文中、「答 担当課長」とありますが、「答 事務局長」の誤りです。お詫びして訂正します。

※読後、議会だよりに対するご感想、ご意見をお寄せください

(仁淀川町議会事務局)

☎35-1081

☎吾川郡仁淀川町大崎200番地

※議会を傍聴しませんか
(日程は、防災無線などでお知らせいたします)

本町医療の現状と課題と医療関係者との意見交換

委員長 藤 崎 源 彦

1 委員会の目的

議会には、医療関係者と違った立場で、住民の生命を守る使命がある。そのため、現状を把握し、課題を整理する必要がある。医療関係者と、医療の現状と課題について意見交換し、住民福祉に生かしたい。

2 医療の現状と課題

片岡保健福祉課長

本町には、1病院、2医院、1診療所がある。それぞれかかりつけ医として、身近にあって総合的な医療を実施している。

町内で対応できない場合は、越知町、佐川町を一つの医療圏として、町内外の医療機関と連携し、対応している。

各医療機関の代表者

大規模災害発生時においては、吾川地区は大崎診療所、仁淀地区は西村医院、池川地区は安部病院が医療救護所に指定されている。町外医療救護所と連携を図り、手当ての緊急度によって振り分け、救助可能な病傷人を確実に救う体制を取

る。

町内施設のうち入院は、安部病院のみ対応。

訪問医療及びリハビリは、大崎診療所で実施。

課題は、高齢化に伴い、通院が困難な住民が増加。今後は、訪問診療、看護、リハビリの体制を整備し、町内外の医療機関と連携、在宅医療供給体制を構築する必要がある。

沖医師（国保大崎診療所）



大崎診療所は、内科と歯科だが、3年前から内科の常勤医が1人となり、入院患者の受け入れができなくなった。

週のうち計2日は県の派

遣医師が外来診療を行い、その時間帯に、特別養護老人ホーム「あがわ荘」、「もみじ荘」の回診、在宅患者の訪問診療、産業医の仕事などを行っている。

休日夜間は1人で対応。出張などで県外に出る際、医療センターに協力をお願いしている。

公的な医療機関として、地域医療を学ぶ研修医を診療所で受け入れ、高知県出身の医学生が地域医療を学ぶにcoming。

課題は、2人いた医師が1人になったことで、医療サービスできる部分が減ったこと。訪問診療に充てる時間も減った。需要はあるが、患者が頼みにくくなっていると感じる。また、建物の老朽化により建て替えの検討をしている。耐震性に問題があり、早期完成を望む。

西村医師（西村医院）



2人医師体制だが、現在は1人で外来診療を行っている。

訪問診療は、月に一度、医院を休診。校医の内科検診や企業検診の日を利用し、個人宅も訪問。

重症患者の病状によっては日曜日でも診療する。課題は人手不足。

酒井医師（酒井医院）



外来で、内科が中心だが、小児科も診療。
看護師2人と事務員2人。

訪問診療は行っていない。かかりつけの患者から時間外の往診希望があれば、夜中でも対応する場合がある。

川村事務長（安部病院）



入院病床のうち、介護療養病床は、年齢、介護度ともに上がる傾向。

常勤医師は院長のみで、非常勤医師8人。外来は主に院長が行う。他の医療専門職は、人員基準ぎりぎり。

課題は、

- 一・職員の確保
- 一・購入機器の償還
- 一・建物の老朽化
- 一・患者数減少
- 一・人件費の上昇

福祉施設との医療連携

沖医師

特別養護老人ホームの嘱託医。

診察の結果、入院が必要な場合は他の医療機関を紹介している。

西村医師

障害者支援施設は、定期的に内科検診、予防接種時は訪問。グループホームの入居者は、外来診療で対応。

川村事務長（安部病院）

常勤医師1人、当院関連のグループホームでも緊急性の高い往診以外は、外来診療。

今後の医療の在り方

沖医師

2医師体制にして、訪問医療に力を入れたい。町内に訪問看護の施設がなく、今は越知の訪問看護ステーションと連携。

今後、訪問看護は診療所での対応を検討する。

川村事務長（安部病院）

終末期の医療を実施。患者や家族と相談し治療方針を決定している。

西村医師

終末期医療は、介護力が必要。食事が普通にとれない人は在宅での生活は難しい。

酒井医師

医師として、患者を大事にすれば、間違いが少ないと思う。

5自由な意見交換

片岡議員

災害などで負傷者が発生した場合、新大崎診療所には病床設備を確保するべきではないか。

沖医師

過去、一般病床が赤字の原因だった。災害時の対応に病床を設けるのは経営上難しい。

必要なときに取り出せるベッドや、照明・冷暖房設備があれば対応できる。

竹本議員

地方の医師不足の原因は。

沖医師

地域医療に求められるのは総合医だが、専門医を選択する医学生が増えた。

若藤議員

医師が何かの原因で診察

できなくなった場合、どう対応するか。

川村事務長（安部病院）

近隣町村と連携を深め、一つの医療圏になれば、住民が安心できると思う。

西森（常）議員

新大崎診療所に入院施設を望む声が多いが。

沖医師

県に働き掛けているが、医師の確保は難しい。



総務教育民生常任委員会の様子



町長行政報告

認知症型グループホーム整備
農業集落排水施設機能強化

【近畿仁淀川会】

本町出身者で組織する近畿仁淀川会の総会が、5月20日に大阪市で130人ほどが集まり開催、交流を図った。

この会は、近畿地方に在住されている仁淀川町出身の方々と、町内の世話役の方々との親交の場、総会後の交流会では、「ふるさと仁淀川町」の近況報告や意見交換を行い、町行政の推進になお一層のご理解と、ご支援・ご協力をお願いした。

【ふるさと納税】

本町のふるさと納税「仁淀ブループロジェクト寄付金」の29年度実績は、寄付件数358件、寄付総額947万円あまり、平成28年度が476件、897万円で、件数で118件の減、総額で50万円ほどの増。

寄付件数の減少は、総務大臣通知で、寄付額に対する返礼割合を3割以下とする指導があり、本町も寄付額の5割程度を平成29年10月より3割程度としたことが要因。

返礼品は、お茶製品、竹細工芸品、トマト、宿泊プランなどが主なもの。

本事業の返礼品は、観光協会に業務委託している。寄付金は、清流仁淀川を中心とした環境保全や伝統芸能の保存・継承に使用している。

【認知症高齢者グループホーム施設整備】

本町の認知症高齢者グループホーム5施設のうち4施設は民設民営方式で運営。

グループホーム「よりあい」は町内唯一の公設の施設。



新耐震基準を満たしていないグループホーム「よりあい」(岩丸)

設、町内民間事業者を指定管理者として指定し、公設民営方式で運営。

建物は新耐震基準を満たしていないため、現在の指

定管理者により民設民営のグループホームとして新設移転する。

【池川茶業組合農産物等処理加工施設整備】

池川茶業組合は、「荒茶」の出荷販売に加え、「仕上げ茶」の小売販売を行ってきたが、今後、県内量販店で店頭販売と「ギフト・ネット販売」の強化による販路拡大、二番茶を活用した輸出などの販路開拓に取り組み、「仕上げ茶」の小売販売拡大を図り、所得向上を目指す。

保管庫として、JAコスモス池川支所の予冷库を借用しているが、輸出には、国際的な衛生基準に対応する施設整備が必要。

仕上げ茶の袋詰め作業を機械化し、衛生管理を徹底する必要がある。

【農業集落排水施設の機能強化】

森地区並びに田村地区の設備は、耐用年数を過ぎ、長寿命化対策のために平成29年度に実施した「機能診断」の結果を踏まえ、平成30年度から平成32年度まで両地区の農業集落排水施設の機能強化を図る。

教育長行政報告

元校長横領事件陳謝



今般、県内の元公立小学校長による多額の横領事件が発覚した。

5月1日に県内の教育長が集まり、問題点と再発防止策の協議を行った。本町では翌日の2日に臨時校長会を招集、教育長会での協議内容の報告と教職員への指導の徹底を要請した。

本町は学校に関係する準公金の調査を定期的に教育委員会が行っている。

仁淀川町教育振興計画は平成25年に10年計画として策定された。策定から5年

が経過し新たな学習指導要領が告示、国・県の指導方針や事業展開が大きく変更されたため改訂版を作成した。

【学校の状況】

年度初めの行事や修学旅行が終わり、子どもたちは新しい環境にも慣れ、落ち着いて学校生活を送っている。現在の生徒数は、小学校3校で156人、中学校2校で70人、総数は226人となっている。

次に、6月9日から3日



バレー作戦タイム



卓球女子2位表彰

間の日程で実施された高吾地区中学校総合体育大会の結果。仁淀中が柔道団体で男子が優勝、女子が準優勝、個人で男子2人と女子1人が優勝、卓球では仁淀中の女子団体が準優勝し、県体出場を決めた。ほかにソフトボールで池川・仁淀・尾川・佐川の合同チーム、卓球は仁淀中の男子団体と個人女子1人、柔道で仁淀中の個人男女各1人が、7月21日開会予定の県大会に出場する。

議長（ロメモ）！

「本庁舎は防災の拠点」

本庁舎完成から半年、いまだ「職員も減るのに大き過ぎる。税金はもつと身近な事業に使ってほしかった」などの批判が絶えない。新庁舎は地震や災害で道路が寸断され、孤立化しても数百人の町民が生活できる緊急避難施設としての機能を備え、1週間分の電気を確保できる非常用電源設備も完備されている。

総工費は22億円を要しているが95%が合併特例債を充当しており、町負担分は庁舎建設基金を充当している。特例債は使途が限られており、庁舎を縮小しても福祉事業には適用できない。

新庁舎は南海トラフ地震や万一の災害に備え、防災の拠点として、その力を大いに発揮するものと期待している。

議長 若藤 敏久

「大阪北部地震」「西日本豪雨災害」で被災を受けられた皆さまに、心からお見舞い申し上げます。

被災地におかれましては、一日も早い復旧と皆さまのご無事をお祈り申し上げます。



峠ノ越大師堂



昭和30年代まで巡礼者の休憩場所としても利用されていた（間口4.4m、奥行3.5m）

日 記 帳		5月	
30 3月	定例議会	13日	物部川・仁淀川総合 水防演習(南国市物 部川)
6 9日	全員協議会	14日	道路整備促進期成 同盟会高知県地方 協議会通常総会、 道路整備促進高知 県大会(高知市)
13日	池川・仁淀中学校卒 業式	15日	議会基本条例検討 特別委員会
22日	池川・長者・別府小 学校卒業式	17日	仁淀川町身体障害 者会総会(副議長出 席)
27日	議会基本条例検討 特別委員会	23日	国道33号整備促進 期成同盟会高知県 協議会総会(越知 町)
4月	春季戦没者追悼式 (池川)	24日	総務教育民生常任 委員会
5日	(株)フードプラン新 工場竣工式	25日	国道439号整備促進 期成同盟会総会(高 知市)
8日	中津観光開き	28 29日	第43回全国町村議 会議長・副議長研修 会(東京都)
10日	春季戦没者追悼式 (仁淀)	30日	広域議会
11日	吾川郡町村議会議 長会定期総会		高吾北地区地域安 全協会役員会及び 総会(佐川町)
13日	春季戦没者追悼式 (吾川)	31日	秋田県議会地域社 会の維持・活性化に 関する調査特別委 員会の行政視察
17日	議会だより特別委 員会		国道33号整備促進 期成同盟会総会
19日	安田町議会行政視 察		
22日	スノーピークおち 仁淀川キャンプ フィールド落成式 及び祝賀会(越知 町)		
23 25日	吾川郡町村議会議 長会県外研修(北海 道浦幌町、栗山町) 合区の早期解消促 進大会(東京都)	6月	
27日		1日	仁淀川町老人クラ ブ連合会総会
		5日	議会運営委員会

編後

集記

議会だより編集に関わり
5年目、つくづく編集の難し
さを感じています。

より多くの町民の皆さんに読んでいただくように

① 読んでみたくなる紙面

② 住民目線で読みやすい内容

③ 議会だよりにしかない情報
の掲載

④ 記録ではなく情報誌にする

このことを目標として取り組み編集にあたります。お気づきの点があれば議会に声をお届けください。

(竹本文直記)

議会だより特別委員会

委員長 竹本文直

副委員長 左京 憲昌

委員 大野 弘

委員 藤崎 源彦

委員 野村 安夫

